

学校名 草加市立新栄小学校
所在地 埼玉県草加市新栄4丁目959
電話 048-941-2189

1 本校の概要

本校は通常学級12クラス、特別支援学級2クラスの学校である。学校教育目標を「なかよく」「かしこく」「たくましく」を掲げ、一人ひとりが輝けるような児童の育成を目指している。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書習慣に係る取組
- ・ 家庭や地域との連携

(2) 実践の概要

ア 学期ごとに図書イベントを実施

1 学期

〔読書クイズ〕図書室に来て、本を借りるとクイズが書かれた紙を箱の中から引くことができ、正解すると、スタンプが1つもらえ、それを3つ集めるとしおりがもらえる。クイズの問題は図書委員会で考えた。

2 学期 (10月15日～11月15日)を読書月間とし、以下の取組を行った。

〔読書ビンゴ〕ビンゴのマスに本のジャンルやお題が書かれており、それに沿った本を読むとマスを埋めることができる。ビンゴを達成するとしおりがもらえる。全員がビンゴを達成したクラスには賞状を渡した。

〔本の総選挙〕低学年・中学年・高学年それぞれのおすすめの本を学校司書が選書し、図書室前に掲示した。その掲示を見て、どの本を学校に置いてほしいか投票を行った。投票が多かった上位3冊を購入した。



3 学期

〔読書パズル〕図書室で本を借りると、1枚のパズルのピースがもらえ、教室にあるパズルの台紙に貼ることができる。パズルが完成したクラスには図書委員から賞状をもらえる。

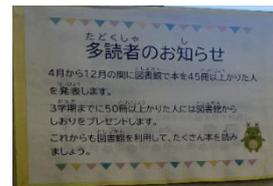


イ 読書タイム・読み聞かせタイム

木曜日の朝の時間に読書タイム・読み聞かせタイムを設定している。読み聞かせは保護者や地域の方々が行ってくださっており、内容は季節に合ったものや大型絵本など様々である。年に1回、保護者、地域の読み聞かせボランティア、学校司書で読み聞かせの児童の様子や選書に関わる情報交換を行い、読書活動に役立っている。

ウ 多読者の表彰

2学期・3学期のイベント実施に合わせて多読者を各担任に確認してもらい、100冊以上読んだ児童には校長先生から賞状をもらうことができる。



エ 学年文庫の設置

自分が図書室で借りた本以外にも気軽に本が読むことができるように、各学年の廊下に学年文庫30冊を設置している。学校司書が本を選書し、図書委員が毎月、本の入れ替え作業を行っている。本の内容は、1年を通して全ての分類の本を入れ、様々なジャンルの本を手にとることができようとしている。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

- ・ イベントを行うことで図書室に足を運ぶ児童が増えた。毎学期実施していることで、次はどんなイベントがあるのか、楽しみにしている児童もいる。
- ・ 「読書ビンゴ」を通して、様々な分類の本に触れることができ、子供たちの読書の幅を広げるよききっかけとなっている。
- ・ 「本の総選挙」は自由参加であったが、どの学年も関心をもって進んで参加していた。本を選ぶ楽しさを感じてもらおうと同時に新栄小の児童の声が図書室に直接的に反映されるイベントとなった。
- ・ 学年文庫の設置により、児童は自分で借りてきた本、学級文庫、学年文庫と身近に本をみて手にとる読書環境がある。実際に学年文庫にある本に興味をもち、その本を目的に図書室に借りに来る児童も増えた。

(2) 課題

- ・ 図書室の利用数は増えているものの、学級や個人差が多いように感じる。
- ・ 児童の借りている本を見ると、偏りが多く、様々なジャンルの本を読むことが課題である。

(3) おわりに

本校では、毎月少なくとも約2千冊以上の本の貸出がある。休み時間の図書室では一人で読む児童、友だちと一緒に読む児童、高学年が低学年に読み聞かせをしてあげている児童も見られ、読書に親しむ姿は多く見られる。

しかしながら、本校の児童の選書には偏りがあり、読書の幅を広げる点が今後の課題となる。このことから「読書ビンゴ」や学年文庫の設置を継続し、意図的に児童が様々なジャンルを手にとることができるよう、働きかけを続ける必要がある。読書の幅を広げることで、より読書に親しむ機会を増やし、自ら楽しんで読書をする習慣を身につけさせていきたい。